

魅力開発校の取組紹介<京丹後市立大宮第一小学校>

京丹後市立大宮第一小学校では、「学習意欲を高める教育活動の創造」をテーマに研究を進めています。

<研究主題>

子どもたちがいきいきと楽しく学ぶ理科・生活科の授業づくり

<期待する効果>

理科・生活科ともに「体感させる」「表現させる」「思考錯誤させる」「調べさせる」指導法が存在し、活動的な学習内容を設定することが多いです。自然と関わり、友達と関わり、教師と関わる中で、生活科では楽しむ喜びを、理科では分かる喜びを児童は感じることができます。そのような教科特性を活かして「学習意欲を高める授業の創造」を、重点研究のテーマとしています。

「子どもたちがいきいきと楽しく学ぶ理科・生活科の授業」を基にして、事後研究会で各々の教師が「授業を斬り」、自分たちの指導観を擦り合わせていきます。その時の議論が各教師の指導力を向上させていくことになります。

理科・生活科における教師の指導力の向上が、他教科の指導に波及し、「学習意欲を高める教育活動の創造」を目指す動きを生み出すものと考えています。

<取組の紹介>

① 子どもたちがいきいきと楽しく学ぶ理科・生活科の授業」の公開

[ブロック研究会]

授業者は1名ですが、学年会での教材研究を中心に、10名弱の教師グループで授業研究会に向けた授業づくりを進めています。

右の写真は、第7回授業研究会に向けた中学年ブロック研究会の様子です。3年の「電気で明かりをつけよう」の単元の授業づくりを進めています。児童の目線で身近なものを集め、電気を通すものかどうかを調べています。



[事前研究会]

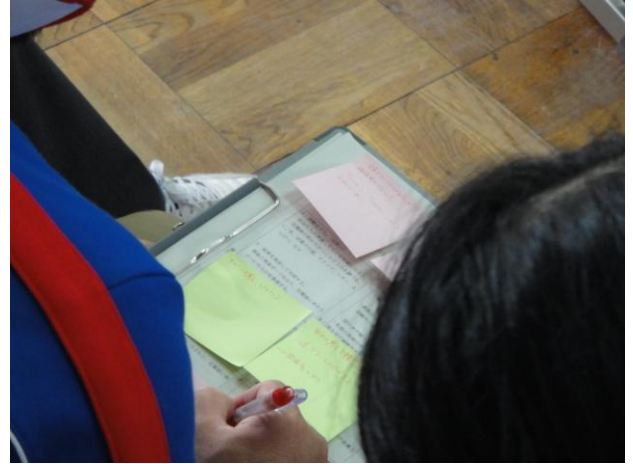
事前研究会では、教師全員に指導案の説明をします。その際、児童にさせる実験を全員で必ず体験します。

授業を少しでも深く理解するため、「聞く」だけでなく、実際に「やってみる」ことを大事にしています。実際に「やってみる」ことで、一人一人の教師に気付きが生まれ、個人または全体での参観の視点が生まれます。



[授業参観]

水曜日2校時に授業を公開し、教師全員で参観します。その際、参観者の気付きを付箋にメモしておきます。ピンク色の付箋は仮説に関わるもの、黄緑色の付箋は仮説以外のものを記入していきます。これらの付箋は、事後研究会で意見を述べるときに提出します。



[公開された授業]

学習内容は電気を通すものについて考え合うもので、基本に忠実な理科の授業でした。児童は、電気を通すかどうか、一つずつ確かめていくうちに、電気を通す素材に着目しました。「銀、鉄、金、アルミニウム、ステンレス、プラチナ…」—— まとめとして「金属」という言葉を知ると、児童に笑顔が溢れました。個々の素朴な概念と言葉が、科学的な見方や考え方に昇華した瞬間でした。



実験についての確かめ



あ〜、ついた！！（笑顔）



実験結果の全体確認から、大切なものが見えてきた。



金属って言うんだよ。 あ〜っ、知ってた！！

②自分たちの指導観を擦り合わせる事後研究会の創造

[授業者・ブロックから]

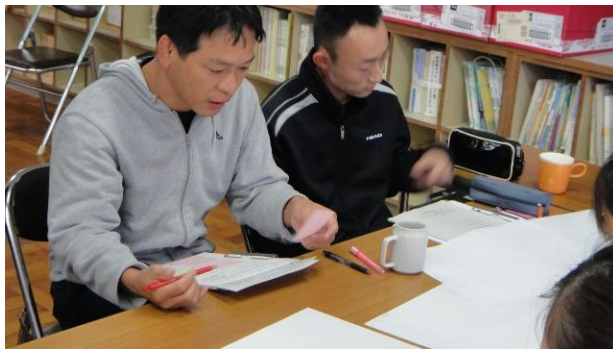
まずは、授業者の「振り返り」を全体に伝えることから始まります。その「振り返り」は、同じ学年の先生、ブロック研究会に参加した先生と同心円状に広がっていきます。先行授業から感じたこと、学習内容の系統性から考えたこと、学級づくりの中で確かめたいことなど—— その広がりの中で、様々な視点での気づきが提供されます。

[グループ協議]

本校は35人ほどの教師がおり、一同で協議をするよりも小集団に分かれて協議した方が効果的です。一人一人の発言量が増し、活発な話し合いが生まれる可能性が高まります。付箋にメモしてあるので自分の気づきを確実に伝えることができ、かつ、提出された付箋を整理することで質の高い話し合いが実現します。仮説の真偽、授業づくりのポイント、新たな課題などを見出すことができます。



3つに分かれて、グループ協議をしました。



付箋のメモをもとに授業に関する意見を述べ、集まった付箋をKJ法で分類していきました。





協議はどんどん進み、様々な視点から「授業を斬る」話し合いができました。

最後の協議報告。特徴的な事柄2～3点のみで簡単に。

